

2月の菜園管理

(平成24年2月10日～3月10日頃まで)

平成24年度楽しい菜園運営

1. 楽しい菜園づくりの5か条

- 一つ、自分の体力に見合った生産計画を立てる。有り余る量は作らない。
- 一つ、出来るだけ種類を多く作る。自家シェフの要望に見合った素材を作る。
- 一つ、小葉菜(ホウレンソウ、小松菜、小かぶ等)は年間切れ目ない生産に心がける。
- 一つ、ナス、キュウリ、トマト等は収穫期間の長い栽培技術を確立する。
- 一つ、良品、完熟生産の徹底。孫、子供、シェフが喜ぶものを作る。
(良品とは甘みがある、舌・歯ざわりがよい、
水分が豊富である、香りが高いなどを重ねそなえたもの。)

2. 菜園運営上の留意事項

- 連作をさける。(昨年の作付け実態の確認と今年度の作付け予定の検討)
- 農機具の点検整備(耕耘機、クワ、カマ、ハサミ、防除器具など)
- 肥料農薬の備蓄点検
 - ・肥料・・・苦土石灰、みのり堆肥、BMグリーン、A801、S604、ケイソ、米ぬか
 - ・農薬・・・ジェイエース粒剤、スミチオン水和剤、ダコニール1000、
ジマンダイセン水和剤、スプラサイド乳剤40、アミスター20フロアブル
- 敷きわら用資材
 - ・稲ワラまたはダンボール板紙
- マルチ用資材
 - ・黒/白黒マルチ(アブラムシの予防の効果)
 - ・寒冷紗
- 支柱用材
 - ・竹
 - ・プラスチック材
 - ・2分縄(太さ5～6mm)



気象概況と主な課題

概況－寒気の流れ込みと雲の発生しやすい気象環境になっています。積雪量は昨年並(山間部は大雪)が予想されますが、気温の低い日が多いでしょう。積雪前の越冬やさいの生育は概ね順調に推移しています。病害虫の被害も見当たりませんが、越冬大根、人参、生育の早いそら豆、エンドウ等に凍害が心配です。天気の良い日に土寄せを勧めます。

出来るだけ早く融雪するよう（2月上旬頃まで）うね上全面にクンタン灰、またはみのり堆肥等を散布しましょう。
2月下旬になったら出来るだけ早く春耕し、地温の上昇、土壌の膨軟化を図り菜園管理が楽しくなるよう心がけましょう。

主な課題

- 1、越冬野菜の当面の管理
- 2、果樹の冬季仕上げ管理
- 3、春野菜の肥培管理（元肥施用の考え方）



1、越冬野菜の当面の管理

① 雪腐れ病の予防防除

3月5日頃までに越冬やさい全般にZボルドー水和剤の500倍液を1㎡当り1Lジョウロで表面散布する。

② 春肥の施用

2月25日～30日頃に目覚め肥として、S604化成を㎡当たり30g施用する。但し、エンドウマメは株より約40cm離れた場所に施す。アスパラガス、ウド、ラッキョ、アサツキも春肥を施す。

③ 霜害対策【特に留意しましょう】

エンドウ・ソラマメ等は草丈5cm（本葉5枚）以上になると葉肉が厚くなり、凍害を受けやすくなるので、本葉5枚でいずれも摘芯する。イチゴの保温材除去は3月15日以降にする。（強い霜害をさける）

④ 融雪の促進

2月20日頃になっても、うね上に雪（根雪）があると、地温上昇が遅れるので1㎡当り約1kgのクンタンまたはみのり堆肥を散布して融雪の促進に努めましょう。

2、果樹の冬季仕上げ管理

① 2月いっぱいまでに剪定作業を終える。但し、ウメはすでに蕾が3ミリ以上ふくらんでいるので、剪定作業はしない。（前年の徒長枝除去は忘れずに）

② 主枝、亜主枝の誘引作業の徹底

結果枝や結果母枝全体に光線が当たるよう枝を誘引する。

③ 元肥の施用（前年11月号を参照）

元肥の施用を忘れた方は3月5日頃までに施す。

- ④ 黒星病、黒点病、黒斑病、縮葉病等の予防。
 モモの場合は3月2日前後に石灰硫黄合剤の7倍液を散布する。
 モモ以外の果樹は2月いっぱいまでに石灰硫黄合剤の50～70倍液を散布する。

3、春野菜の肥培管理(元肥施用の考え方)・・・作業は播種・定植の15日前に終える

- ① 春耕は出来るだけ早めに行い、地温の上昇、土壌の膨軟化を促す。特にいも類の栽培予定地は、早めの春耕を勧めます。
- ② 今年も局地的気象変動が予想されます。従って野菜作りは根群の健全化に留意した肥培管理が肝要です。

③ 春野菜の元肥施肥例 (単位 1 m²当り)

作物名	苦土石灰 (g)	みのり 堆肥 (kg)	A801 (g)	ケイソ (g)	米ぬか (g)	摘 要 (播種又は定植時期)
馬鈴薯	—	1	180	—	—	3月20日以降
ホウレンソウ	200	2	200	600	200	4月1日以降
ウグイスナ	150	1	150	300	200	3月25日以降
コカブ	150	2	180	300	200	4月5日以降
春大根	100	2	200	—	300	4月10日～4月15日

④ 施肥方法 (地温が深さ5～7cmのところ、11℃以上に上昇してから作業に入る)

馬鈴薯

荒起した後、みのり堆肥とA801を畑全面に施し2回碎土する。
 のち植溝を掘り(幅10cm、深さ7cm程度)種いもを35cm間隔に伏せ、
 その株間へみのり堆肥2掴みを施し、その上にS604を1/4掴みを待
 肥として施し溝が埋まる程度に覆土する(種いもの上5～6cm)。
 そうか病に犯される畑は碎土前にネビジン粉剤、又はフロンサイド粉剤
 を1m²当たり60g程度散布し予防する。

ホウレンソウ・ウグイスナ・コカブ

苦土石灰を全面に施し荒起しを行い、2日後みのり堆肥、ケイソ、米
 ぬか、化成肥料の順番に畑全面に施し、2回碎土してうね幅60cm、高さ
 15cm程度のうね立てをする。(播種15日前に完了する)

春大根

前項同様の施肥順で元肥を施し、うね幅60cm高さ20cmのうね立てをする。